

講演 4

ナッジ活用の注意点 ～患者の意思決定へのかかわり方～



びとう せいじ
尾藤 誠司

医療法人財団慈生会 野村病院
特任副院長

要旨

医療者が考える最善の医療は、必ずしも患者にとって望ましい医療とはいえません。私は、医療者と患者がすれ違う要因は、医療者が持つ独特な思考、固定観念にあると考え、それを「医師アタマ」と名付けました。公衆衛生に資する公共政策でのナッジ活用には賛成ですが、日常診療の中で医療者が無自覚にナッジを使うことには危惧を抱いています。本講演では、ナッジを臨床でよりよく実践するためのポイントを考えます。

キーワード

医師アタマ, ナロー・フレーミング, カツアゲインフォームド・コンセント (カツアゲIC), 共同意思決定 (SDM), リバタリアン・パターナリズム, パターナリスティック・リバタリアン

語句解説

講演 1

講演 2

講演 3

講演 4

講演を
終えて

最新
トピックス

徒然なる
ままに。